

# 経営比較分析表

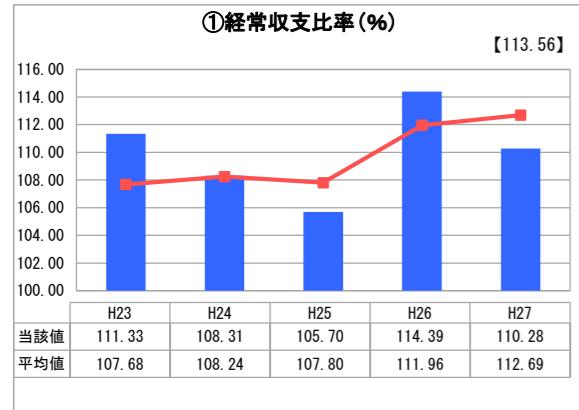
京都府 舞鶴市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	68.67	94.63	2,484

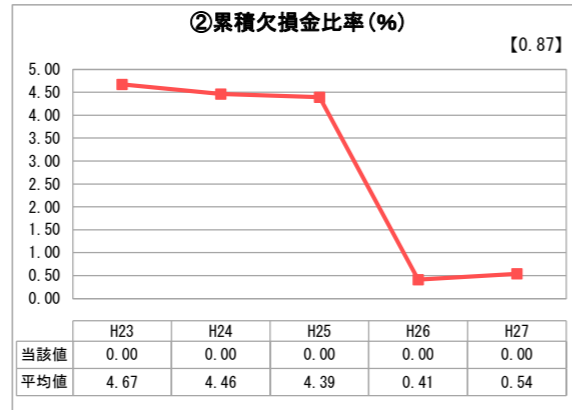
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
86,124	342.12	251.74
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
80,550	41.44	1,943.77

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

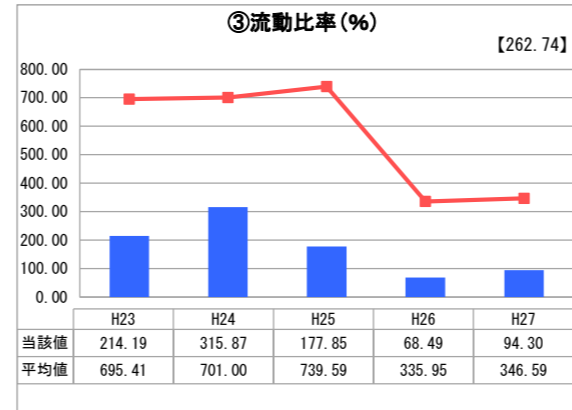
## 1. 経営の健全性・効率性



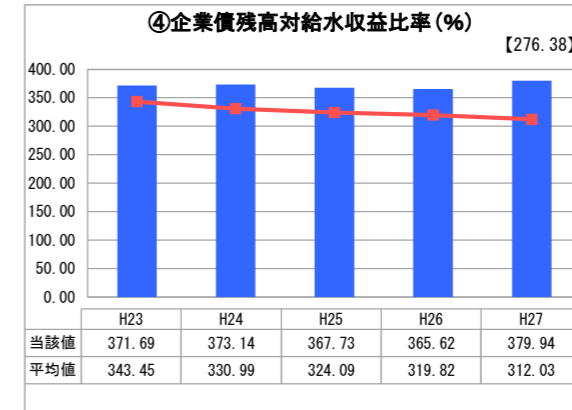
「経常損益」



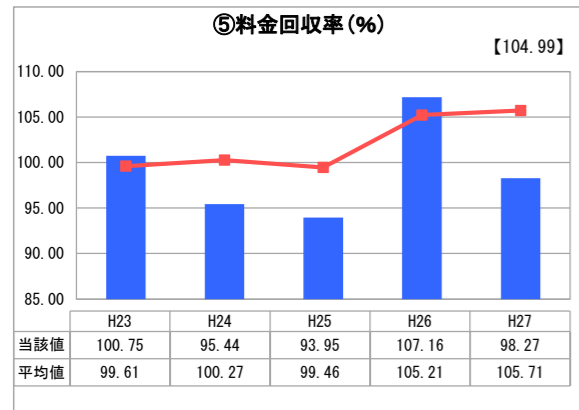
「累積欠損」



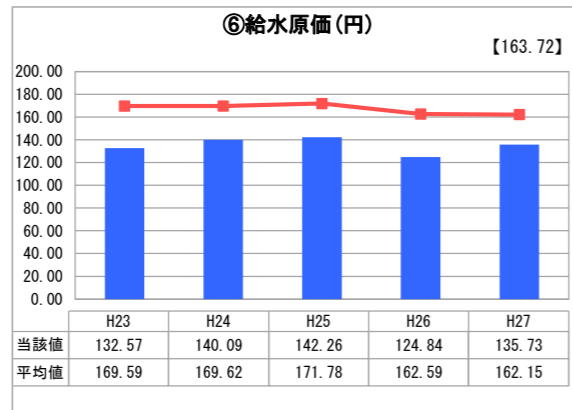
「支払能力」



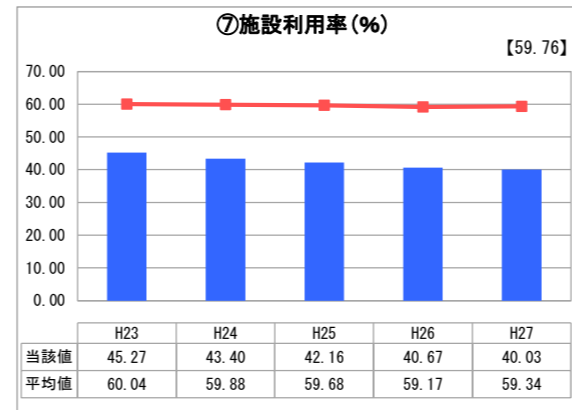
「債務残高」



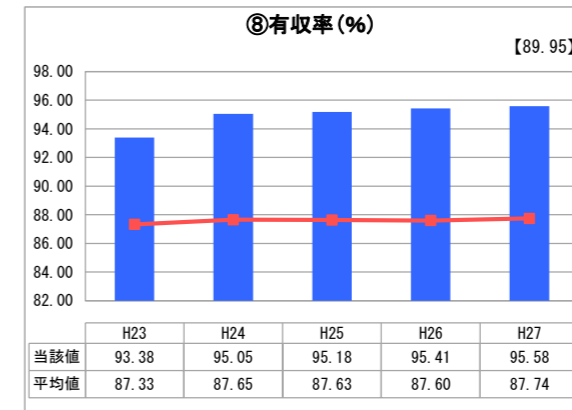
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

## 分析欄

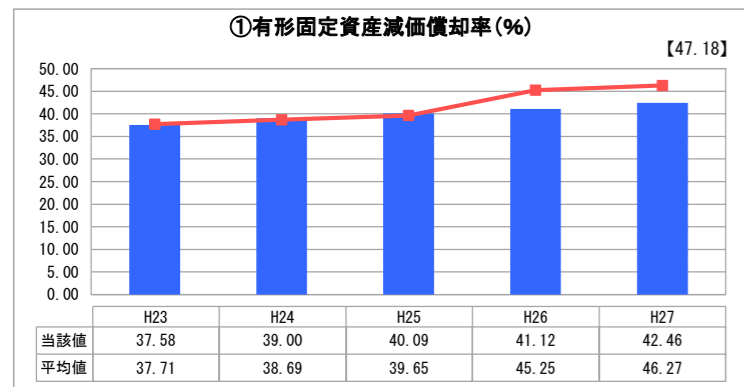
### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を上回っているが、人口減少や節水機器の普及等により給水収益が減少（⑦施設利用率は年々低下しています。）する一方で、減価償却費等の経費が増加していることから、その比率は低下傾向にあります。  
 また、経費の増加により、⑥給水原価は増加傾向にありますが、料金水準は変わらない（料金改定未実施）ことから、⑤料金回収率は低下傾向にあり、100%を下回っております。  
 さらに、基幹浄水場や老朽管の更新・耐震化経費が増加していることから、その財源を確保するための企業債借入の増加に伴い、④企業債残高対給水収益比率が増加傾向にあり、料金収入額の3.8倍に達していることや、内部留保資金の充当により、資金が減少し、③流動比率は100%を下回る状況となっております。

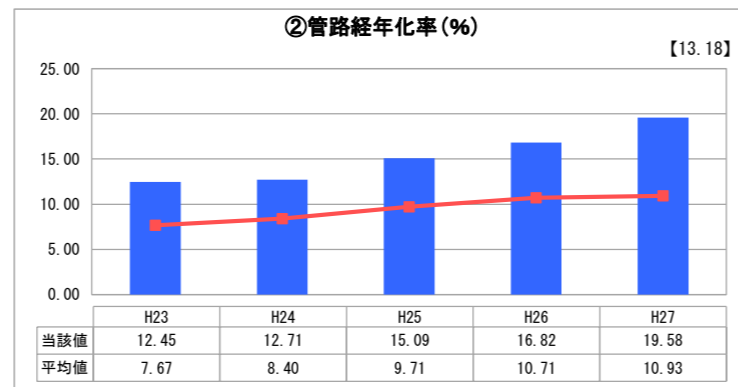
### 2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を超えた水道管の比率（②管路経年化率）は、年々増加し、平成27年度末には、約20%にまで達しました。これは、類似団体平均（10.93%）や全国平均（13.18%）と比べて高い数値であり、増加率も類似団体平均を上回っております。  
 こうしたことから、経年管路の更新については、水道ビジョンに基づき、中長期的に更新することとしており、平成29年度から更新事業費を増額していく予定としております。  
 また、耐久性や耐震性に優れた管種で更新することにより、安定供給と今後の更新経費の低減化を図ることとしております。

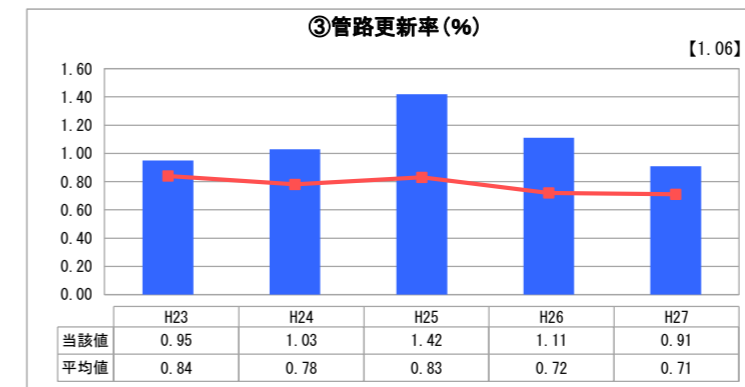
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

### 全体総括

上記のとおり、平成27年度決算まではかろうじて収支は黒字（損益も黒字）を確保いたしましたが、①施設は年々老朽化しており、更新経費を増加させる必要のあること、②給水収益は減収傾向であること、③企業債残高が増加傾向にあること、④内部留保資金はほぼ枯渇していること、などの経営状況にあり、今後の水道事業経営を安定的に継続させていくことが厳しい状況となったことから、水道事業審議会の答申も踏まえ、平成28年10月から平均11.2%増の料金改定を実施させていただきました。今後とも、安心して安全な水道水を安定的に供給できるよう努めてまいります。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。